

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島市立福島養護学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	福島市立福島養護学校 小学部4～6年生 10名 中学部1～3年 25名 高等部Iコース1・2・3年 44名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育科・保健体育科 ） ② 行事名（ 運動会（小） 合同スポーツ大会（中） 福島県特別支援学校 スポーツ大会（高） 車椅子バスケットボール体験教室（中・高） ③ その他（ 福島市が開催する作品展への参加 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、実施種目を知ったり、実際に「ボッチャや車椅子バスケットボール」競技に取り組んだりすることができる。  小：児童の実態に応じて、パラリンピック種目である「ボッチャ」を体験したり、オリパラキャラクターを学校行事に取り入れて実施したりして、運動の楽しさを味わいながら、オリンピックへの関心を高めることができる。 中・高：生徒の実態に応じて、「車椅子バスケットボール」のルールを理解し、友達や先生のアドバイスを受け入れながら、車椅子に乗っての移動やドリブル、シュートの動作を体験する。オリパラに関連したものを作品づくりなどに取り入れ、オリパラへの関心を高める。
5 取組内容	【4月24日（火）～5月15日（火）】 ○ 保健体育の授業において、様々なスポーツに親しむため、選択種目Iとして、4つの種目に分かれて授業を行った。 ○ 実施種目 ・ バスケットボール ・ フライングディスク ・ 卓球

- ・ ボッチャ

【5月25日（土）】

- 小学部運動会において、高学年がオリパラキャラクターを取り入れた競技種目を実施した。

【夏季休業中】

- 特別支援学校スポーツ大会の参加者が決まり、それぞれの種目において、学校で練習を行った。他校の体育館や、競技場を借用して専門的な練習を行うことができた。

【8月27日（火）】

- 保健体育の授業で、オリパラ学習（I'm possible 活用）

【8月29日（木）～ 10月3日（木）】

- 保健体育の授業において、選択種目Ⅱとして、5つの種目に分かれて授業を行った。スポーツ大会の参加者は、それぞれの参加種目の授業で体力・技術向上を図った。

【11月14日（木）】

- 福島県立大笹生支援学校教諭 二階堂俊介先生による、「車椅子バスケットボール体験教室」の開催。  
午後5校時目：中学部生徒による体験教室  
午後6校時目：高等部生徒による体験教室



<生徒の感想>

- ・ 車椅子バスケットボールの試合で、日本代表選手の試合を見てチーム一丸となって試合をしているところがとてもかっこいいと思いました。足が不自由でもバスケットボールがしたいという選手の気持ちが良く分かりました。
- ・ 車椅子に乗って移動しながら、ボールをコントロールするところがとても難しかったです。
- ・ 車椅子で移動したりドリブルしたりすることは難しかったですが、体験して選手を応援したくなりました。

【11月8日（金）】 福島市学校総合文化祭への参加

【12月6日（土）】 福島市福祉作品展への参加



- ・ 小学部、中学部では、学級の仲間が力を合わせてオリンピック・

	<p>パラリンピックをテーマにした作品制作に取り組みました。</p>
6主な成果	<p>○ 小学部では、「ボッチャ」の体験学習（４～６年）をしたり、運動会でオリンピック・パラリンピックに関する運動をしたりすることで、オリンピック・パラリンピック競技の楽しさも多少なりとも味わうことができた。また、作品づくりでは、関連したテーマやシンボル、キャラクターなどを生かして作品を仕上げ、活動を通してオリンピック・パラリンピックへの関心を高めることができた。（小）</p> <p>○ 「車椅子バスケットボール」の体験学習により、競技の難しさや楽しさを味わうことができた。また、作品展に向けた作品作りでは、オリンピックについて調べながら作品作りに取り組み、関心を高めることができた。（中）</p> <p>○ 「車椅子バスケットボール」体験により、車椅子による移動やドリブルの難しさと共に楽しさを味わうことができた。まとめの学習を通してさらにオリンピック・パラリンピックについていろいろなことを知りたいという意欲の高まりが見られた。</p>
7実践において工夫した点 （事業の特色）	<p>○ オリンピック、パラリンピックのキャラクターを学校行事に取り入れたことで、より関心が高まった。また、中学部、高等部では、専門的な知識技能をもち、さらに、車椅子バスケットボール国際審判員としての資格を持つ講師をお呼びしたことは、児童生徒に「車椅子バスケットボール」競技への関心をもたせ、活動意欲を向上させるのに有効であった。</p> <p>○ オリンピック・パラリンピックをテーマにした作品づくりに取り組んだり、学習の振り返りとして新聞作りを取り入れたりしたことで、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高めることができた。</p> <p>児童生徒一人一人に、もっとやってみたい、楽しみたいという意欲付けにつなげることができた。</p>
8主な課題等	<p>○ 特別支援学校（知的障がい）という児童・生徒の実態上、個々の興味関心や身体能力等の個人差が大きい。実態に応じた運動の楽しさをどのような体験させればよいか、運動の場の工夫等について考えていく必要がある。</p> <p>○ 福島市が、スイスやベトナムのホストタウンであることから、国際理解教育として、外国文化を広く知る機会として活動内容を工夫していく必要がある。</p> <p>○ 体験的な活動により、活動を通して理解が深まっていく様子が見られた。競技種目への関心の高まりの他、福島市がオリンピック種目（野球、ソフトボール）の開催県である事、聖火リレースタートの県であること。地元にはたくさんの人々が訪れるということから、たくさんの人々を受け入れ、歓迎する取組についてどうあればよいか、児童生徒の意見も取り入れながら、活動内容を工夫していく必要がある。</p>

9来年度以降 の実施予定	○ オリンピック・パラリンピック本番の年ということで、関連を意識した取り組みを様々な行事の中で企画し、実施したい。また、次年度以降にも継続してできる活動を見つけていきたい。
-----------------	--